

上下水道ビジョン基本方向	I	危機管理による安全重視の水道
--------------	---	----------------

基本施策	4	水道技術の継承
------	---	---------

基本施策目標
専門的知識や技術力等の継承を図るため、継続的な職員の養成・訓練に取り組むとともに、非常事態にも迅速に対応できるよう、危機管理能力や技術の向上に取り組めます。

計画主要施策	計画主要施策の概要・取り組み目標	H25年度 実績(成果)	評価
1 水道技術の継承	<p>〔概要〕 現在のサービス水準を維持・向上させるため、水道事業の運営に専門的な知識・経験を有する技術者を育成・確保し、非常事態にも迅速に対応できる技術・の応力の向上に努め、次世代に継承します。</p> <p>〔取り組み〕 ア. 技術の継承、人材の育成を効果的に行うため、日常業務を通じ研修を行います。(OJT(職場研修)) イ. OFFJT(職場外研修)については、業務との関係を精査し、研修に参加できる環境を整え、研修内容を業務に生かします。 ウ. 他団体との情報の交流・共有化を進め、技術の継承に取り組めます。 エ. 業務のマニュアル化を推進し、業務遂行の水準を確保します。</p> <p>〔目標〕 ア. 継続実施 イ. 継続実施 ウ. 継続実施 エ. 継続実施</p>	<p>現場調査、監督業務など日常業務におけるOJTに取り組んだ。また、各種講習会に参加し、下記資格の取得に努めた。</p> <p>〔取得した主な資格等〕 ・小型車両系建設機械運転技能講習 ・高所作業車運転特別講習 ・危険物取扱者(丙種) ・振動工具取扱者安全衛生教育</p> <p>日本水道協会関西地方支部が主催する研究発表会に参加し、「高度浄水処理施設における粒状活性炭の運用について」をテーマに発表を行った。</p> <p>水道事故、災害など不測の事態を未然に防止するための技術的な業務マニュアルについて、更新を行うとともに、職場会議などで共有化を図り、効果的に活用できるよう取り組んだ。</p>	A
職員資格取得度	(参考:H21 1.98件/人 H22 2.64件/人 H23 2.93件/人 H24 3.02件/人) H25 3.14件/人		

基本施策 総合評価	A
-----------	---

評価結果の説明等
<p>「技術の継承」は、水道事業にとって重要な課題であり、職員の段階的な育成に配慮した事務分担を実施するとともに、日常業務における現場調査、監督業務などのOJTに取り組んだ。また、職場外では、各種講習会へ参加し、資格取得に努めた。</p> <p>日本水道協会関西地方支部の主催する研究発表会へ参加し、広く情報の交流、共有化を図った。</p> <p>工事における事故・災害やトラブルを未然に防止するため、マニュアルの更新と、定例ミーティングを利用した共有化を図り、技術水準の確保に努めた。</p> <p>そのほか、水道施設等危機管理行動指針に準じ、災害時や突発事故などによる配水管の漏水事故を想定した図上訓練を実施し、事故時の対応の充実をすることができた。</p> <p>以上の取り組み結果から、取り組み目標を概ね達成することができたことから評価をAとした。</p>

今後の取り組みの方向性・展開方針

「技術の継承」については、ジョブローテーションを中心とした事務分担により職員のスキルアップを目指す。ナレッジマネジメントにおいては、実務上既に具体化されているものも多数存在することから、その内容の熟度を上げて浸透させ活用する。また、業務マニュアル等の改訂に合わせ、職場研修を実施するとともに、他課と共有した情報等についても、情報共有化に取り組んでいく。

日本水道協会関西地方支部の研究発表会に参加するなど、他団体との技術に関する情報の交流、共有化を進めます。

★参考(計画主要施策に関連する事務事業実績測定)

事務事業名	今後の方向性	所管部署	ID
1 上下水道局職員管理事務	改善	上下水道経営課	31224
2 給水装置審査確認業務	現状のまま継続	給水管理課	30372
3 水道管路等管理事務	現状のまま継続	給水管理課	30373
4 水道管路整備事業	現状のまま継続	水道工務課	30375
5 鉛管解消事業	現状のまま継続	水道工務課	30374
6 水道管路維持管理事業	改善	水道保全課	30376